

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-20596
(P2014-20596A)

(43) 公開日 平成26年2月3日(2014. 2. 3)

(51) Int. Cl.

F25C 1/00 (2006.01)

F I

F 2 5 C 1/00

A

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 10 O L (全 29 頁)

(21) 出願番号 特願2012-156732 (P2012-156732)
(22) 出願日 平成24年7月12日 (2012. 7. 12)

(71) 出願人 504229284
国立大学法人弘前大学
青森県弘前市文京町1番地
(74) 代理人 100108372
弁理士 谷田 拓男
(72) 発明者 麓 耕二
青森県弘前市文京町1番地 国立大学法人
弘前大学内

(54) 【発明の名称】 氷スラリー製造装置および氷スラリー製造方法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 製造に大きな動力と定期的なメンテナンスとが不要で、小型化が容易であり、高精度の温度制御技術が不要であって、生体組織に直接接触するような医療分野への応用が容易であり、低濃度水溶液(例えば、1wt%以下の低塩分濃度)又は真水を用いた氷スラリーを生成できる氷スラリー製造装置等を提供する。

【解決手段】 バルブ24を閉とした後のプランジャーポンプ20による加圧により氷スラリー生成部10内を所定の加圧状態に維持し、熱交換器28等の熱交換手段による水槽部27内の冷却により氷スラリー生成部10内の対象溶液Liqが常圧における凝固点以下の温度で且つ所定の加圧状態における凝固点以上の温度に保持した後、バルブ24を開として流出管23等からドレンタンク26へ対象溶液Liqを排出し、氷スラリー生成部10内を常圧へ減圧することにより、氷スラリー生成部10内の対象溶液Liqを凝固させて氷スラリーを製造する。

【選択図】 図2

